１年次研究について

「であう・つながる・うまれるコミュニケーション」と「条件」

1　話し合い・聞き合いの活動と思考力・判断力・表現力

(1)　話し合い・聞き合いの活動が思考力・判断力・表現力を育むには

思考力・判断力・表現力は問題解決の過程の中で培われていくことにより生きて働く力となる。それは，問題解決的学習の過程そのものが，子どもが自らの知識をもとに思考・判断・表現しながら問題を解決していく活用の場面であるからである。

「であう・つながる・うまれるコミュニケーション」は，子どもが互いにかかわり合いながら自ら思考・判断・表現し，知識を活用するための力をより高めていく学習活動である。話し合い・聞き合いの活動が思考力・判断力・表現力を高めていく学習活動となるためには，教師の手だてが必要となる。例えば意欲的に課題解決に向かい，仲間とかかわり合う必要感を創出するための教師の手だてが考えられる。私たちはこれまでの実践の中から課題解決の過程でどのような手だてが有効であるか，手だてを支える基本的な考え方を見出してきた。私たちはそれを「であう・つながる・うまれるコミュニケーション」の「条件」ととらえ，実践を通して明らかにしてきた。「条件」を加えることによって話し合い・聞き合いの活動は「であう・つながる・うまれるコミュニケーション」となり，「条件」を取り入れた授業デザインによって，子どもの思考力・判断力・表現力はより育まれていくと考えている。

(2)　「条件」

学習にはそれを構成する様々な要素があるように，話し合い・聞き合いの活動が「であう・つながる・うまれるコミュニケーション」となるためには様々な「条件」が考えられる。

私たちは実践を重ね「条件」明らかにする際，各活動でどのような力を子どもにつけていくかを重要視した。それは「思考力・判断力・表現力が育つ」というときには活動の前後で何らかの能力の向上が認められなければならないからである。

思考力・判断力・表現力は，その力を構成する様々な力の総体である。例えばもっている知識を想起し，適用したり，結合させたりして課題解決に至る力，思考内容を総合的に概観した上で，課題「条件」を満たす選択，以降の実践で最も有効な選択を実現する力，思考・判断の内容を，受け手を意識した工夫ある方法で伝えるために言語化する力などが考えられる。これらの力はさらに，細かく分類したり，特定の力に着目したりすることによって，より具体的な力として見ていくことができる。

これらの力は，個々の力が個別に働くのではなく互いに関連しながら問題の解決へと導いていく。思考力・判断力・表現力を様々な下位能力で構成されているはずの能力を単一のものとしてとらえてしまうことは，能力の育成を偏ったものにしてしまう。一面に焦点化した手だてをくり返しても，その能力全体を伸長させることはできない。思考力・判断力・表現力の育成は，個々の力を育てながら問題解決のため活用する力全体を高めていかなくてはならないのである。

(3) 学習活動のデザインと「条件」

つけていく力の明確化と共に重視したのは話し合い・聞き合いの活動のデザインである。学習活動の中の話し合い・聞き合いで思考力・判断力・表現力をどのように力を育てていくか，そのために話し合い・聞き合いの活動をどのように学習展開に位置づけていくか，活動の中で教師がどのような手だてを行うかなど，学習活動のデザインにも力の育成を明確に意図し手だてを講じていく必要があると考えた。

これまで述べてきたように，思考力・判断力・表現力を育てる話し合い・聞き合いの活動とは，思考力・判断力・表現力を構成する各能力を育てる視点でデザインされた活動である。

つまり「条件」とは，話し合い・聞き合いの活動が思考力・判断力・表現力を育むための考え方であり，具体的に手だてを講じる根拠となるものであると言える。

2 「であう・つながる・うまれるコミュニケーション」と「条件」

(1) 「条件」の考え方

「であう・つながる・うまれるコミュニケーション」は特別な活動ではない。話し合い・聞き合いの活動は日常の学習の中でたえず行われている活動である。くり返しになるが，「であう・つながる・うまれるコミュニケーション」が話し合い・聞き合いの活動と異なるのは，思考力・判断力・表現力の育成を明確に意図してデザインされた活動である点である。

話し合い・聞き合いの活動は様々な学習活動の中の一つであり，他の活動と効果的に組み合わせながら学習を構成している。また活動の質は，学習集団や発達段階などの要素と大きくかかわっている。そのため「条件」も学習活動やそれを支える集団づくりや発達段階など様々な要素にかかわるものとなる。

私たちが日常的な実践を通じて得た「条件」は，「活動の中にこれさえしていれば力が育つ」というものではない。学習活動の中でどのような力を育成し，そのためにかかわりをどのように位置づけ，手だてをうっていくか。「であう・つながる・うまれるコミュニケーション」を経るたびに力の育ちが実現していくのである。

つまり，「であう・つながる・うまれるコミュニケーション」とは，目標となる理想的なかかわりの姿なのではなく，日常の様々な場面でたえず行われることで思考力・判断力・表現力を伸長させる学習活動なのである。子どもの実態に応じて思考力・判断力・表現力が育つ話し合い・聞き合いの活動をたえず模索していく場としてとらえるのが本研究の考え方である。

(2) 実践から明らかになった「条件」

私たちがこれまでに実践を重ね，「であう・つながる・うまれるコミュニケーション（思考力・判断力・表現力等が育まれる話し合い・聞き合いの活動）」のための「条件」として見出してきたものは多岐に渡る。学年や集団，教科などの特性によって変化していくものであるが，現時点では次の様に整理してとらえている。

「であう・つながる・うまれるコミュニケーション」の「条件」

であう・つながる・うまれるコミュニケーション

かかわり

- 友達と考えを共有できる
- 他者の心情を共感的に理解していること
- 友達と自分の考えの違いに気付いている
- 目的意識・相手意識を持って表現をする
- 思いや考えをもち　互いに共有する
- 交流を行う必然性があること
- 交流が生きる適切な場があること
- 自他の意見や考えを認め合えること
- 共感的，懐疑的に聞く，話す
- 安心して表現できる場がある
- 課題に対する自他の考えの関係を把握していること
- 子どもが論点を意識する
- 話し合いで子どもが相互に反応する
- 互いの考えを補い話し合っていること
- 話し合う視点が明確になっていること
- 発言が学習活動をつくることを意識する
- 相手の表現をいつも好意的に聴く

比較

- 友達と比べて共通点や相違点に気付く
- 比較する・分類する・関連づける見方ができる
- 自他の考えの立場が明確
- 自分と相手の思いや考えを比較する
- お互いの共通点差異点から 自分の考えにいかしている
- 共通経験や結果 認識の上で話し合っている
- 音楽の表現の仕方や感じ方，考え方の相違点や共通点に気づくことができること
- 話し手の意図を考え自分との思いや考えの違いがわかること
- 数学的表現を用いて考えを共有し，自他の考えを比較検討できること
- 視点や観点などの違いで多様な考えが生まれること

思考の再構築

- 自分の考えを見つめ直す
- 自他の思考や心情を表現しようとしていること
- 他者の思考を推察し理解していること
- 自分の考えを再構成している
- 思考が連鎖している
- 試して自分の考えを見つめ直していること
- 自己の成長に気付いていること
- 相手の思いや考えを受容し 自らの思いや考えをとらえなおす
- 試行や比較を繰り返し，自分の考えを見つめ直していること
- 活用知識が明確にある
- 主体的に試行できる
- プロセス全体が概観できる

意欲

- 課題解決への意欲を持つ
- 比較・分類・関連づけの視点を持つ
- 自分から求めて話し合いをする
- 課題に対する意欲が持続する
- 課題を見出し　解決しようとすること
- 目的意識や相手意識をもってお互いの考えを説明し合っている
- 課題に対して，意欲的に追究していること
- 自ら意欲的に課題に取り組むこと

言語化

- 言語を視覚的に支える表現の場がある
- テキストの適切な活用ができること
- 自分の思いや考えの根拠を明確にもつ
- 課題解決に適切な言葉をつかっていること
- 思考プロセスを言語化する
- 音楽の言葉を正しく理解して表現・鑑賞する

分析・選択

- 共通の事実・体験を基に話し合っていること
- 整理された知識を基にして課題を考えていること
- 課題が子どものものになる
- 判断の根拠を明らかにする
- 多様な考えから選択する
- さまざまなパターンの情報を分析する
- 判断のための価値を明確にする
- 比較の視点を持って表現・鑑賞する
- 異なった視点から事実を見つけ出す
- 活動に入る十分なレディネス
- 解決に向けての見通しをもつこと
- 発言が学習活動をつくることを意識する

(3) 「条件」の可能性

前述の「条件」は，直ちに思考力・判断力・表現力を育むものではない。学年の発達や子どもの実態，教科の特性に応じて学習活動に取り入れ授業をデザインしていく事で，子どもの能力の伸長に寄与していくものであると考えている。

また，ここに示したこれらの「条件」が「であう・つながる・うまれるコミュニケーション」のための「条件」の全てなのではない。「条件」とはこれまでに述べてきたように今後の実践を通してさらなる「条件」が明らかになることも考えられる。

子どもの育ちと共に，本研究もであう・つながる・うまれることによってより広まり，深まっていくのである。

Memo